

タベリ・ミリ等の長野県と東濃での分布(1)

— 中信地方とそれに連続する地域の優しい命令形と勧誘形 —

上 條 厚

キーワード：優しい命令形、勧誘形、言う、言わない、ヤあり・ヤなし

要旨

動詞の優しい命令形、タベリ(食べなさい)・ミリ(見なさい)等と、勧誘形、タベリヤ(食べよう)・ミリヤ(見よう)等の使用に関して、長野県およびそれに隣接する地域の若年層について調査した。これらの形は中信地方とそこに隣接する岐阜県の市町村でよく使われることが分かった。長野県内は中信地方以外の地域でも少し使われる。優しい命令形と勧誘形の両方をよく使うのは、中信地方の中央の地域である。その周辺に勧誘形のみ使う地域がある。木曾郡とそれに隣接する岐阜県の市町村では、ほとんど優しい命令形のみが使われる。岐阜県のは長野県境方面から広がったことが可能性として考えられる。

1. 始めに

上條(2001)は、長野県中信地方方言で行われる動詞の優しい命令形、タベリ(食べなさい)・ミリ(見なさい)等と、勧誘形、タベリヤ(食べよう)・ミリヤ(見よう)等に関して、松本地方を中心に若年層について述べた。本稿は長野県およびそれに隣接する一部地域のタベリ(ヤ)・ミリ(ヤ)に関して、同じく若年層について述べる。

これらの形は松本地方では、ヨミ(←読む)・タベリ(←食べる)・ミリ(←見る)・シリ(←する)等が優しい命令形、それらにヤを付けたものが勧誘形として使われている。調査した結果、中信地方およびそれに隣接する地域の若年層で、これら形が使われていることが分かった。ただし使用の様相は地域により違いがあり、調査した動詞の形の一部のみ言う地域、命令形・勧誘形のどちらかのみを言う地域などがある。また意味・用法がすべての地域で全く同じであるかどうかについては、一つひとつそこまで詳しくは確認していないので定かでない。それはほぼ同じだと見なした上で述べることにする。なおこれらの語形は上條(2001)でも触れたように、他にも行われている地方があるが、本稿は長野県とそれに隣接する一部地域に限定して述べる。

2. 調査の方法

本稿の基とする調査は、上條(2001)のものと同じであり、次のように行った。(方言形

表記はカタカナとラテン文字をてきぎ使うが、便宜上のものであり、特に意味する違いがあるわけではない)

調査票は次のように作成した。まず「優しい命令(または勧誘)の言い方 taberi('ja)・miri('ja)などを言うか」と問い、・言う・(自分の故郷で)周囲の人が言うのを聞くことがある・言わないし(自分の故郷では)聞くこともないの、いずれであるかを回答してもらい。次に・言うの場合には下記に基づいて、それぞれを言うか言わないか、回答してもらい。

(読む→)	'jomi	'jomi'ja
(買う→)	ka'i	ka'i'ja
(食べる→)	taberi	taberi'ja
(見る→)	miri	miri'ja
(遊んでいる→)	'asonde'iri	'asonde'iri'ja
	'asonderi	'asonderi'ja
(来る→)	ki	ki'ja
	kuri	kuri'ja
(する→)	si	si'ja
	siri	siri'ja
	suri	suri'ja

調査の対象としたのは、まず本学における筆者の授業を受けていた学生である。次に学生だけでは資料を得難い地域の場合、それぞれの地域の一般の人である。学生に対する調査の時は、筆者が説明した後、各自回答して提出してもらった。それ以外の場合には筆者が面接調査をして記入した。

調査は1995年から1997年にかけて行った。1997年4月1日現在で18歳～30歳の人たちを、以下で分析する対象とする。ただし適当な調査対象者が得られなかった場合、32歳までを許容範囲とし、それについては年齢を注記する。居住歴に関して、対象として適当とするのは、13歳前後～18歳前後を同一の地域で過ごした人とする。

3. 調査結果の集計・地図化

3. 1 「言う」「聞く」「言わない」の集計・地図化

男女の差について上條(2001)は、松本地方での回答の数値を挙げ、「ほとんどないものと考えてよいであろう」とした。以下では男女差を考慮せずに論を進める。

調査の結果を集計する。・言う(以下「言う」と示す)・(自分の故郷で)周囲の人が言うのを聞くことがある(以下「聞く」と示す)・言わないし(自分の故郷では)聞くこともない(以下「言わない」と示す)の回答数についてまず集計する。「言う」について優しい命令形・勧誘形の別は、最初は考慮せずに集計する。調査票の1つの項目でも言うという回答がある場合には、「言う」とする。その結果は表1のごとくである。表1に長野県については全市町村を挙げるが、空白の部分は資料が得られなかった所である。長

野県以外は、隣接する市町村で必要な所のみ挙げる。

表1

		言う	聞く	言わない			佐久町		
							白田町		
								1	
南信地方									
岡谷市		1	1	3	佐久市			5	
諏訪市		2	2	1	小諸市			5	
茅野市			1	3	北佐久郡	御代田町		1	
諏訪郡	下諏訪町			5		軽井沢町			
	原村			2		浅科村		1	
	富士見町			1		北御牧村		2	
						望月町		2	
						立科町	1	5	
上伊那郡	辰野町		1	5					
	箕輪町	1	2	1	小県郡	東部町	1	1	3
	南箕輪村			3		真田町		1	1
	高遠町			3		長門町	2	2	
	長谷村					和田村		1	2
	宮田村					武石村	2		
	飯島町			2		丸子町		1	4
	中川村			1		青木村			3
伊那市		1	1	9	上田市		3	2	12
駒ヶ根市			1	3					
北信地方									
飯田市			1	15	埴科郡	坂城町		1	
下伊那郡	松川町					戸倉町		5	
	高森町			2					
	豊丘村				更級郡	上山田町		1	3
	大鹿村					大岡村	2	1	
	喬木村			2	更埴市			2	6
	上村								
	南信濃村				須坂市			2	11
	天龍村				上高井郡	高山村			4
	清内路村			2(注1)		小布施町	1		2
	阿智村								
	浪合村			1	中野市			7	
	下條村				下高井郡	山ノ内町		4	
	泰阜村					木島平村		1	
	阿南町					野沢温泉村		2	
	平谷村			2(注2)					
	売木村				下水内郡	栄村			
	根羽村			2		豊田村		1	
東信地方									
					飯山市			8	
南佐久郡	川上村				長野市		10	87	
	南牧村				上水内郡	豊野町		1	
	南相木村					三水村		1	
	北相木村			1		牟礼村			
	小海町			1		信濃町	1	3	
	八千穂村			1		戸隠村			

	鬼無里村			2		木祖村			2(注3)
	中条村		1			日義村			3
	小川村	1		2		木曾福島町		3	
	信州新町			3		開田村		3	
中信地方						三岳村	3		
						王滝村	2		
北安曇郡	小谷村	3	1			上松町	5		
	白馬村			5		大桑村	4		
	美麻村	3				南木曾町	3		
	八坂村				3	山口村	1	1	
	池田町	5				岐阜県			
	松川村	3				上矢作町	3		
大町市		7				串原村	3		
						明智町	3		
南安曇郡	穂高町	4	1			中津川市	5	3	
	豊科町	8				恵那市	5		
	堀金村	3				岩村町	2		1
	三郷村	5				山岡町	2		
	梓川村	4				瑞浪市			8
	安曇村	3				土岐市			2
	奈川村	3				坂下町	3	1	
東筑摩郡	坂井村					福岡町	3		
	麻績村	2				蛭川村	3		
	坂北村	1	1			川上村	1		
	本城村	2				付知町	3		
	生坂村	1	1			加子母村		3	
	明科町	2	1			東白川村			1
	四賀村	6				白川町			4
	波田町	4				八百津町			3
	山形村	2				御高町			2
	朝日村	2				愛知県			
松本市		33	8	1		稲武町			3
塩尻市		9	4			旭町			2
						小原村			1
木曾郡	檜川村	2				新潟県			
						糸魚川市			6
						妙高高原町			1

(注1) 1名1965年生、32歳。1名1966年生、31歳。(年齢は1997年4月1日現在。以下同じ)

(注2) 内1名1966年生、31歳。

(注3) 内1名1965年生、32歳。

(補足) 上條(2001)では南安曇郡梓川村の回答数を2としている。同論文作成時に迂闊にも未使用であった2名を今回加え、4とする。

表1の市町村で資料が得られている所を地図上に示すと、次々ページの市町村地図のごとくである。地図で空白の部分は、調査票による資料が得られていない市町村、および南箕輪村の飛び地と諏訪湖である。県境および南信地方・東信地方・北信地方・中信地方の境を太い線で示してある。

回答に基づき、各市町村ごと次のように分類する。

- ・「言う」が回答数全体の60%以上ある（回答数が3の場合、2以上。5の場合3以上である。分布地図1で「『言う』60%以上」と示す）
- ・「言う」が回答数全体の60%未満ある（「言う」が1人でもあればここに入る。分布地図1で「『言う』60%未満」と示す）
- ・「言う」が0%で、「聞く」が1人以上ある（分布地図1で「聞く」と示す）
- ・「言わない」の回答のみ（分布地図1で「『言わない』のみ」と示す）

これを地図に示すと、分布地図1のごとくである。

調査の結果について補足する。

中信地方の中で1個所、東筑摩郡坂井村だけが、調査票に基づく資料が得られていない。これは筆者の不手際による結果であったが、なんとも残念である。ただし調査票による調査ではないが、坂井村出身の学生1名から、ka'i・taberi・miri・maateri(←待っている)・ki・siri を言うとの回答を得ている。これは本稿の調査票による調査を始める以前にした質問への回答である。調査票に基づく調査でないので、表・地図には挙げず、参考としてのみ述べる。

木曾郡開田村は、「聞く」のみの回答となっている。これも調査票による調査ではないが、開田村出身の学生1名から、ka'i・keri(←蹴る)・taberi・miri・ki・siri を言うとの報告を、授業のレポートにより得ている。本稿の調査を始める以前のことである。これも参考のみとする。

分布地図1を見ると、「『言う』60%以上」が、中信地方とそれに隣接する岐阜県の市町村（美濃の国の東部地域である）に集中していることが分かる。ただしその中間に「聞く」「言わない」もある。長野県内で中信地方以外にある「『言う』60%以上」は、中信地方に隣接する更級郡大岡村と小県郡武石村である。なお武石村は隣接するといっても、高い山を隔てている。「『言う』60%未満」は「60%以上」に連なって分布している。中間に「言わない」を挟みながらも、「聞く」が周辺の方に分布している。さらにその周辺の方に「言わない」がある。

3. 2 優しい命令形・勧誘形の集計・地図化

次に「言う」の回答の中で、優しい命令形・勧誘形の別に関して見る。両方を言うという回答と、片方のみを言うという回答がある。それについて集計する。それぞれ調査票で1項目でも言うという回答があれば、言うの方に数えて集計する。次のように分類する。優しい命令形はヤを伴わず、勧誘形はヤを伴うので、それによって略記する。

- ・優しい命令形・勧誘形、両方とも言う（「ヤなし○ ヤあり○」と示す）
- ・優しい命令形のみ言う（「ヤなし○ ヤあり×」と示す）
- ・勧誘形のみ言う（「ヤなし× ヤあり○」と示す）

この回答数を表に示すと、表2のごとくである。

市町村地図

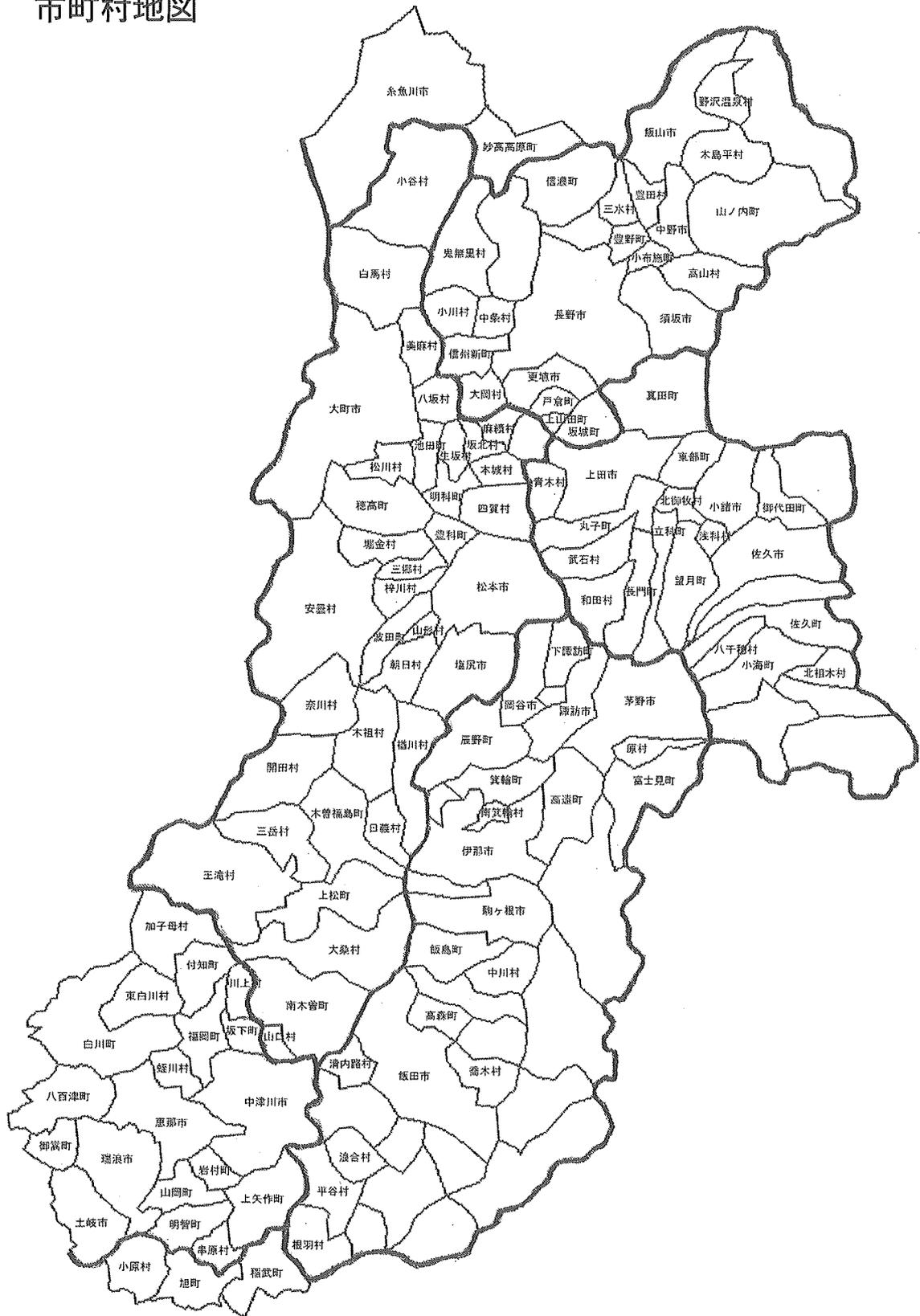


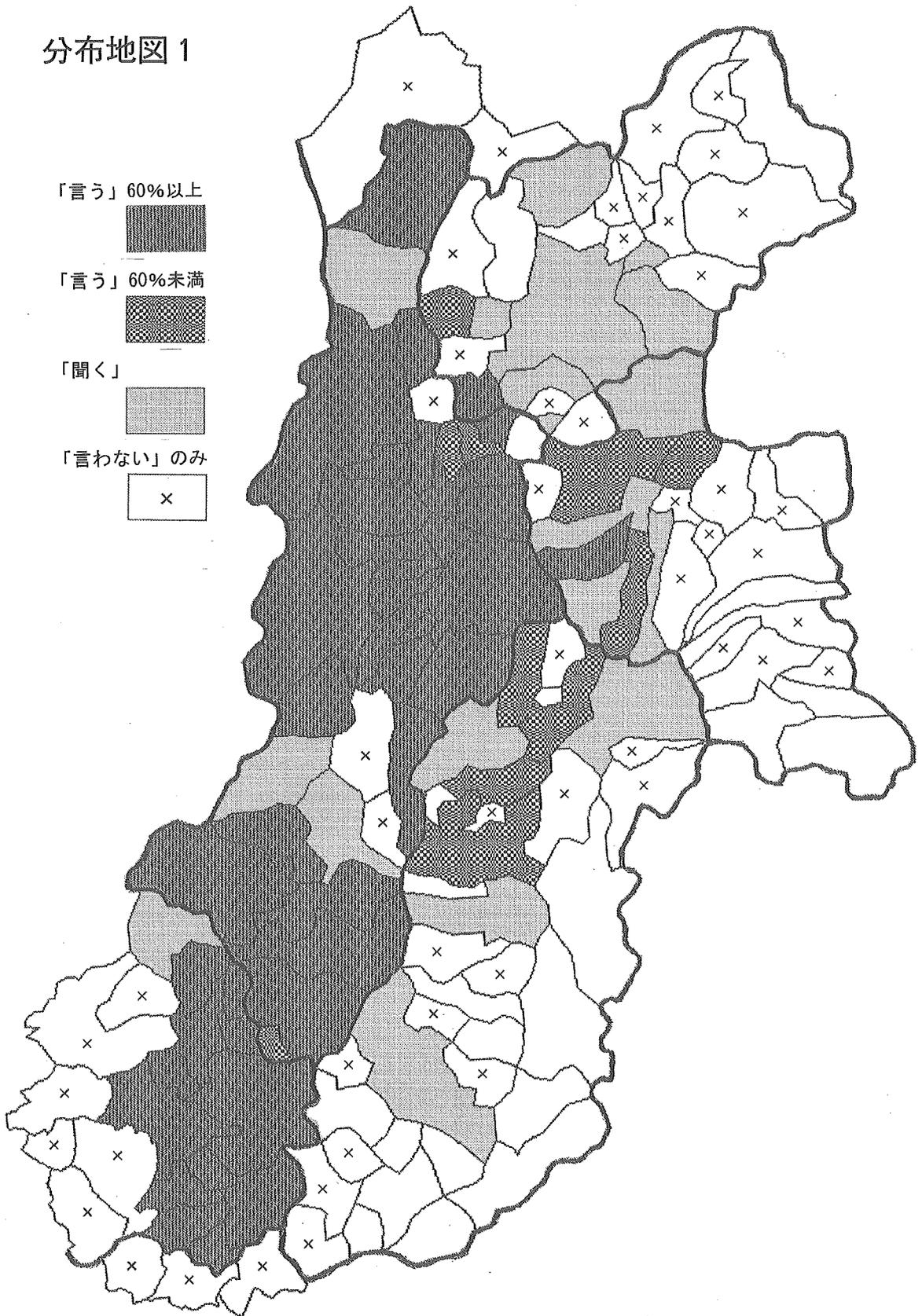
表 2

		ヤなしヤあり	ヤなしヤあり	ヤなしヤあり			
		○ ○	○ ×	× ○			
					坂北村		1
					本城村	2	
					生坂村	1	
岡谷市		1			明科町		1
諏訪市		2			四賀村	6	
上伊那郡	箕輪町		1		波田町	4	
伊那市			1		山形村	2	
					朝日村	2	
小県郡	東部町		1		松本市	22	11
	長門町		2		塩尻市	6	2
	武石村		2				1
上田市		1	2		木曾郡		
					檜川村		2
更級郡	大岡村		2		三岳村		3
上水内郡	小川村		1		王滝村		2
					上松町	1	4
北安曇郡	小谷村		2	1	大桑村		4
	美麻村	3			南木曾町		3
	池田町	5			山口村		1
	松川村	3			岐阜県		
大町市		6		1	上矢作町		3
					串原村		3
南安曇郡	穂高町	2	2		明智町	1	2
	豊科町	5	3		中津川市		5
	堀金村	3			恵那市		5
	三郷村	4	1		岩村町		2
	梓川村	4			山岡町		2
	安曇村	3			坂下町	1	2
	奈川村			3	福岡町		3
東筑摩郡	麻績村	2			蛭川村		3
					川上村		1
					付知町		3

この表に基づいて、「ヤなし○ ヤあり○」50%超 ・「ヤなし○ ヤあり×」50%超 ・「ヤなし× ヤあり○」50%超 を地図に示すと、分布地図2のごとくである。南安曇郡穂高町は回答数が半々であるが、「ヤなし○ ヤあり○」が強い地域にあるので、便宜上「『ヤなし○ ヤあり○』50%超」に入れる。同じく東筑摩郡明科町も回答が半々であるが、周りが「ヤなし○ ヤあり○」の地域であり、また「ヤあり○」はこの周辺にしかないのので、便宜上「『ヤなし× ヤあり○』50%超」に入れる。

分布地図2を見ると、「『ヤなし○ ヤあり○』50%超」が中信地方の中央と、それに連続する東南方に少し分布していることが分かる。「『ヤなし○ ヤあり×』50%超」は木曾郡の南半とそれに連続する岐阜県の市町村に分布し、また他にも分散して少し分布している。

分布地図 1

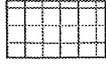


分布地図 2

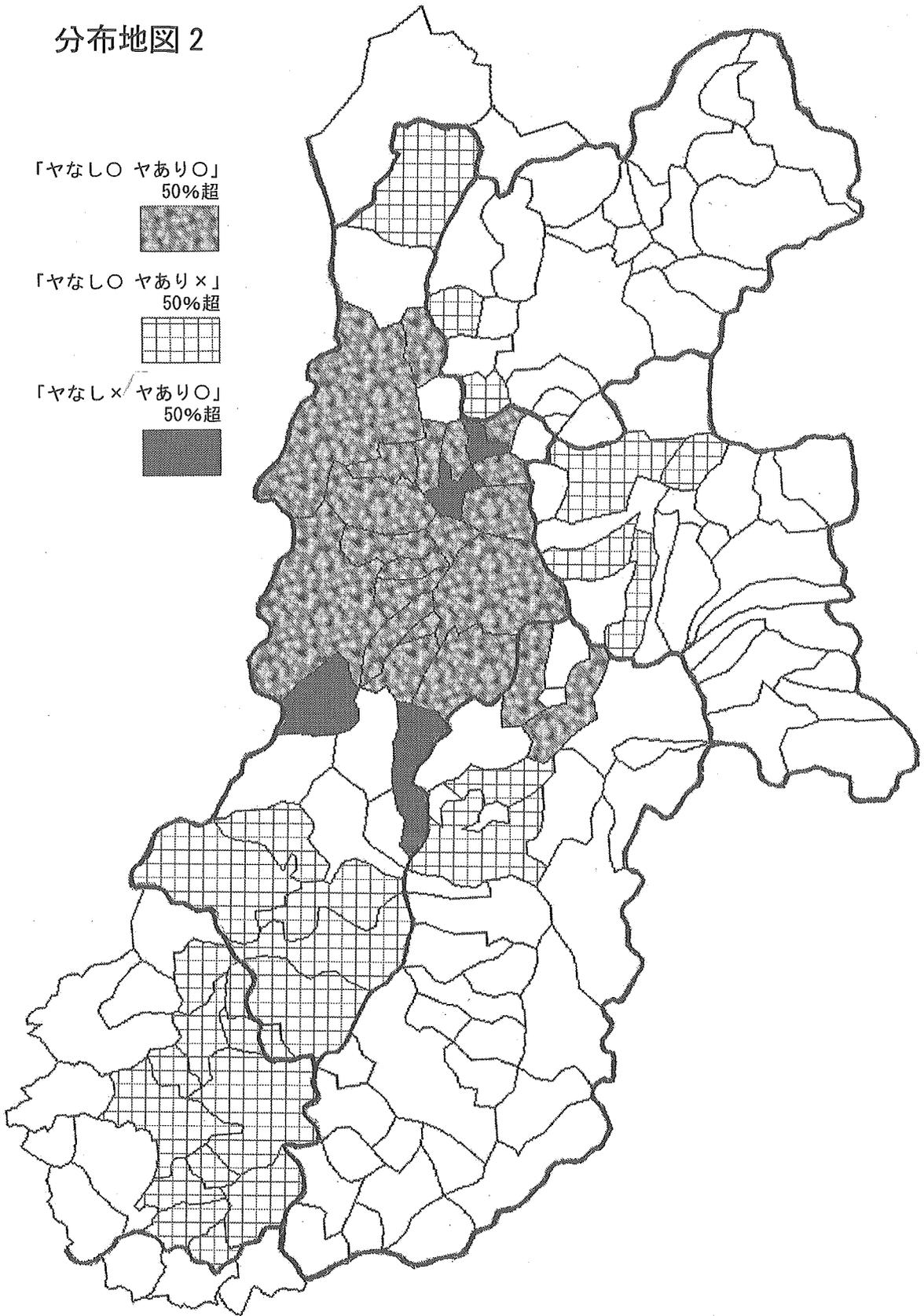
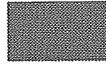
「ヤなし○ ヤあり○」
50%超



「ヤなし○ ヤあり×」
50%超



「ヤなし× ヤあり○」
50%超



4. 分布地図1・2を読む

4. 1 分布地図1から

調査の結果は以上のとおりである。表1・分布地図1に見るように、中信地方で、北安曇郡八坂村、木曾郡木祖村・日義村が「言わない」となっている。また北安曇郡白馬村、木曾郡開田村・木曾福島町が「聞く」となっている。(開田村については前述した)これらの地域は周りが「言う」であることからして、これらの地域にも、多数調べれば「言う」の人がいる可能性が考えられる。いずれにせよ中信地方と、そこに隣接する岐阜県の市町村で「言う」が多い。

4. 1. 1 中信地方

中信地方の中の旧東筑摩郡域(東筑摩郡および松本市・塩尻市)、南安曇郡、旧北安曇郡域(北安曇郡および大町市)の連なりは、途中に高い山がなく、南北に続いている。その結果、分布地図に見るように、連続した分布となったことが考えられる。なおこれらの地域の西側は高い山である。

北安曇郡白馬村は「聞く」のみであるが、参考までに高年齢者を見ると、1942年生(55歳)・女は、「言う」である。

北安曇郡小谷村の西側・東側は高い山である。北側は国道148号線が、相当に曲がりくねりながら、新潟県糸魚川市に続いている。糸魚川市では「言わない」となっている。タベリ・ミリ等の北への広がり小谷村までということである。

4. 1. 2 木曾郡・岐阜県

木曾郡と旧東筑摩郡域との間の地形を見ると、榑川村は塩尻市から国道19号線でつながっている。榑川村の人の言によると、榑川村の北部は塩尻文化圏だとのこと。木祖村は隣の奈川村との間に峠道がある。

木曾郡の中では三岳村以南が全部「言う」である。木曾郡内は平野と言えほどの広い所がない地形であるが、交通網を通じてその地域に広まったのであろう。

木曾郡の南端の山口村は、岐阜県側の中津川市・坂下町との間に地理上の障害物がなくつながっている。「言う」が連続しているのもそのためであろう。

岐阜県内の「言う」の西端に恵那市がある。その西方の瑞浪市・土岐市との間は、国道19号線等でつながっているが、そこは「言わない」である。この結果は、タベリ・ミリ等は長野県境方面から広まったのかもしれないということを思わせる。

本稿の資料を得るために、筆者は各地を回った。岐阜県のこの部分の調査の時は、木曾郡の調査を終えてから岐阜県側に入り、各市町村を回って、「言う」から「言わない」に回答が変わる所まで行った。付知町から加子母村に入ったときは、「言う」から「聞く」に変わったのであり、「言わない」ではなかったが、そちらの方向への調査は加子母村でやめてしまった。しかしやめるべきでなかった。その隣は下呂町(飛弾の国)であるが、そこまで調査に行くべきであった。

4. 1. 3 北信地方

北信地方では「言う」の回答は、更級郡大岡村と上水内郡小川村のみである。大岡村は村内に丘陵地が多いが、中信地方とは国道19号線で、東筑摩郡生坂村・北安曇郡八坂村か

らつながっている。3名の回答者の内、2名が「言う」であるが、言う項目は *taberi* のみである。(市町村別のそれぞれの項目の使用状況については、後で述べる)

小川村は中信地方とは北安曇郡美麻村から、相当高地にある道であるが、つながっている。3名の回答の内、1名が「言う」である。回答者、1973年生・女が筆者に語ったところによると、「高校の時、ある時急に出て来た感じで使い出した」ということである。通った高校は長野市妻科にある。語られたままと参考として記す。ただし高校生の際に使い出したからといって、それは時期を示すのであって、そのことが直ちに通った高校の友達や地域の影響を受けたことを意味するわけではない。今回の調査結果では、長野市には「言う」がなく「聞く」のみである。事実のみ記し、後々の資料として留めておく。

4. 1. 4 東信地方

東信地方で「言う」の回答があるのは、小県郡東部町・長門町・武石村、上田市である。武石村では、回答者の2名ともが「言う」である。それ以外の市町は『言う』60%未満であるが、長門町は4名の回答者の内2名が「言う」である。東信地方と中信地方の間は高い山があり、峠道がある。中間に山があるとはいえ「言う」の市町村が、いずれも中信地方に近い方にあることは注目できよう。中信地方からの影響を可能性として考えることができる。ただし関連をどのように捕らえるかは難しいところである。

4. 1. 5 南信地方

南信地方で「言う」は岡谷市、諏訪市、上伊那郡箕輪町、伊那市であるが、いずれも『言う』60%未満である。中信地方から南信地方に入る道は、塩尻市から上伊那郡辰野町に行く国道153号線と、同じく塩尻市から岡谷市に通ずる国道20号線(ただしこれは峠道)である。したがって塩尻市方面からの影響が考えられよう。南信地方の中部から南については「言う」が1つもない。木曾地方・岐阜県とは高い山で隔てられている。そのため、この言い方が伝わる事がなかったのであろう。

4. 1. 6 愛知県

愛知県での調査は、岐阜県の南に隣接する3町村、稲武町・旭町・小原村で行ったが、「言う」の回答がない。その命令形は *taberin*・*mirin* 等を言うという回答であった。そこは三河の地。三河弁の世界である。しかも若い人たちの間で生きて使われている。

4. 2 分布地図1・2から

4. 2. 1 「ヤなし○ ヤあり○」

分布地図2を見ると、『ヤなし○ ヤあり○』50%超は中央部分にのみまとまってある。それに分布地図1を重ねてみると、『言う』60%以上でありかつ『ヤなし○ ヤあり○』50%超である所は、中信地方の中の、塩尻市・東筑摩郡朝日村より北、大町市・北安曇郡美麻村より南の範囲に固まっている。優しい命令形と勧誘形の両方をよく使う地域は、中信地方の中央にこのようなまとまりとなっているわけである。それが地図ではっきり示されている。

ほかに『ヤなし○ ヤあり○』50%超であるのは、岡谷市と諏訪市である。両市は『言う』60%未満であるが、中信地方の『ヤなし○ ヤあり○』50%超に連続する両

市が、そのようになっていることは興味深い。これは中信地方から伝わったと考えるのが順当であろう。

4. 2. 2 「ヤなし× ヤあり○」

『「ヤなし× ヤあり○」50%超』は、東筑摩郡明科町・坂北村、南安曇郡奈川村、木曾郡榑川村の4個町村である。いずれも『「ヤなし○ ヤあり○」50%超』に連続しており、しかもその周辺にある。明科町については前に触れたが、「ヤなし○ ヤあり×」と1名ずつである。他の3个村は「ヤなし× ヤあり○」のみの回答である。これらが皆『「ヤなし○ ヤあり○」50%超』の周辺にあることから、1つの可能性として、「ヤなし○ ヤあり○」が盛んな地域から「ヤあり」の言い方のみが広まったということが考えられる。別の可能性としては、全域「ヤなし○ ヤあり○」であったが、周辺では「ヤなし」が言われなくなったということが考えられよう。

いずれにせよ、これを含め「ヤあり○」はこの地域に圧倒的である。他の地域にも言うという回答があることはあるものの、ここ、中信地方中央とその隣接地に優勢である。

4. 2. 3 「ヤなし○ ヤあり×」

『「ヤなし○ ヤあり×」50%超』は、木曾郡の南半から岐阜県の市町村に連続している大きなまとまりがある。この部分は木曾郡山口村を除いて、すべて『「言う」60%以上』である。このように『「ヤなし○ ヤあり×」50%超』でありかつ『「言う」60%以上』の部分が、大きなまとまりとなっている。これは中信地方中央の『「ヤなし○ ヤあり○」50%超』のまとまりと好対照の、大勢力である。このような勢力が県境と関係なしに広がっていることは、興味深いことである。

中信地方でほかに『「ヤなし○ ヤあり×」50%超』かつ『「言う」60%以上』は、北安曇郡小谷村のみである。

これら以外の『「ヤなし○ ヤあり×」50%超』は、『「ヤなし○ ヤあり○」50%超』の周りに分散して分布している。この中で「ヤあり○」は上田市に1名あるのみで、ほかにはない。これが示すことは、「ヤなし」の方が「ヤあり」よりも広まりやすいということであろうか。それは1つの可能性としてある。しかしどう考えるのがよいかはなかなか難しいことである。

(未完)

引用文献

上條 厚 2001 「タベリ・ミリ等の松本地方での状況 — 中信地方方言の優しい命令形と勧誘形 —」『信州大学留学生センター紀要』第2号